

一般質問

「町の合併」後顧の憂い残さぬ
合併の環境づくりを

浜田 等議員

浜田 等議員 町長は前の議会で、宮之城が今立ち上がりなければならぬ時、合併ができないと後の世になって大変な批判を受ける。それなりの覚悟を決めて合併を積極的に進めると表明された。平成の代の今回の大合併、これが実行できなければ後世の代に憂いを残すことになる。関係町の首長方が緊密な連携のもと、リーダーシップを発揮していただくこと、さらには関係町の職員が自由に合併問題について話しができる雰囲気、環境を首長方は早く醸成すべきであると思うが。

関係町の理解と

協力が不可欠

北村町長 合併は一つの町が一方的に進めるものではない。

すべきと思うが、対応について何う。

整備促進を
重点的にすすめる

町長 国道等の整備促進については、期成会で、また、個別に要望を続けている。県は当地域は高規格道路整備・中心市街地の整備・船木地区の拡張整備等多くの問題を抱えており、国の財政上の事情から一解決はかなり難しいとい

う。しかし、高規格道路については今回、整備区間格上げもほぼ目途がついた。また、中心市街地の整備については、A調査・B調査を踏まえて十八年以降着工となる見込みなので、様子を見て指摘のことについては、重点的に要望していきたい。

県立北薩広域公園開園
に向けての環境整備を

浜田議員

あと数か月すると、県立北薩広域公園が一部開園する。県内外から入園者が二たび三たび行ってみたい印象を与えるため、環境整備対策、案内板の設置や沿道に花の植栽、道路、河川の清掃

地域住民・事業者と
一体となり取り組む

町長 開園に向けての環境整備は行政のみならず、地域住民・事業者と一体となり取り組むことが求められている。水環境・大気環境・自然環境・道路環境等の各方面の対策を講ずることを考えている。特に道路等公共施設の整備にあたっては、里親管理制度の活用・「衛自連」が推奨している「三三三〇クリーンの日運動」を推進する。河川の自然保護については、「川内川に自然を取り戻す会」と一体となり、対策に取り組む。また、沿道の竹林整備等については、所有者の協力を得て環境整備を行う。



国道二六七号山崎・船木の四車線区間延伸地点

など、町自